

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日				
児童発達支援・保育所等訪問支援 スマイル今里店		令和7年2月15日				
	チェック項目	はい		いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
		100%	0%			
環境・体制整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	100%	0%	・利用人数が多い際は2つのプレイルームで分けたり、運動と机上活動、昼食と午睡など場面によってプレイルームを使い分けている。 ・運動を行う際は、近隣の公園やスマイル本店の3階にある療育施設を活用している。	・スマイル本店の療育施設は、株式会社SmileGroup全店舗が使用するため、スケジュール管理・調整を行い、活用していく。	
	2 利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	100%	0%	・安全な療育環境、質の高い療育内容を行えるように、利用確定前に別日の振り替えをご提案している。令和6年4月から平日は2部制を導入し、人数調整を行っている。 ・利用定員による人員配置基準より多い5~6名体制を整えている。		
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか、また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	75%	25%	・活動ごとに部屋を分ける、机の配置を工夫する等して環境整備を行っている。 ・玄関からプレイルームまでは段差がなく、バリアフリーである。仕切りは細かすぎないため分かりやすい。段差も少ない環境である。 ・トイレ前の段差においては、職員の見守りやお子様への声掛けを徹底している。		
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	75%	25%	・日々の事業所内清掃や食事前のアルコール消毒、加温空気清浄機、定期的な送迎車清掃により清潔な環境作りを心掛けている。玄関や手洗い場に手指の消毒液を常時設置。手洗い場での泡石鹸での手洗いを全員が実施している。 ・運動、机上活動等、内容によって2つのプレイルームの用途を分けた空間作りをしている。 ・収納を増やす等をして、生活空間の清潔を保っている。子どもたちの活動に合わせた環境にその都度している。		
	5 必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	100%	0%	・プレイルームのコーナーそれぞれに机を配置して、個別療育の場所を作っている。 ・職員の休憩室(個室空間)を個別療育の場や、お客様のクールダウンの部屋として活用している。		
業務改善	6 業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	75%	25%	・毎日の朝礼・終礼で業務の確認や振り返りを行い、職員間で進捗状況を共有している。運営に関する業務の話だけではなく、お子様の療育に関する話を普段の職員同士のコミュニケーションで密に行っている。 ・経験年数の差により業務を複数職員で分担し、取り組む事でチェック体制を整え、業務を遂行している。 ・月ごとに業務分担された仕事の締切期日があり、進捗状況を全職員が把握できる体制を作っています。	・個々に業務遂行への課題を持って取り組んでおり、事業所として明文化された目標設定は特にない。今後検討していきたい。	
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	100%	0%	・毎年行う保護者向けの評価表以外にも、令和6年度はスマイル独自の保護者アンケートを実施し、サービスの満足度や改善点を聞き取り、業務改善につなげている。 ・評価表だけでなく、個別相談の機会や、直接保護者様と顔を合わせた時のご意見をその都度職員間で共有し、改善につなげている。		
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	100%	0%	・各職員の意識として、報告、連絡、相談を心掛け、円滑な業務遂行につなげている。 ・各自、普段から職員間でコミュニケーションをとり、自分の意見を言える場、他者の意見を聞く環境になっている。 ・職員同士で話す機会が多いため、朝礼、終礼を含み、把握に努めている。	・会議や話し合い、個別面談等、時間を確保し、職員間での意見交換や各々の意見を率直に言い、業務改善に向けて意見が反映できる環境作りが必要である。	
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	75%	25%	・現在は同じグループ内の他店舗から、第三者目録での毎月の書類チェックや評価を聞く機会がある。 ・社内で情報共有をしている。	・現在は株式会社SmileGroupを超えての第三者による外部評価を行っていないが、今後必要に応じて検討していく。	
	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	100%	0%	・新入社員の研修制度 (OFF-JT、OJT) 以外に店舗内の研修や外部研修の参加を積極的に行う。 ・外部研修に行った職員から研修内容を事業所内で共有することを通して、職員全体の資質向上に努めている。	・職員により研修受講の機会に差が見られたため、様々な研修案内を行い、積極的な研修希望へとつなげ参加者を増やしていく。	
	11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	100%	0%	・支援プログラムは、株式会社SmileGroupのホームページ内、各種資料のページに掲載している。		
	12 個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	100%	0%	・個別支援計画においては、児童発達支援管理責任者が発達心理に基づくお子様の発達段階の見極めと共に、スマイル独自の発達段階を考慮した5領域のアセスメントシートを用いて現状を把握し、課題設定に活かしている。 ・専門的支援実施計画書においては、様々な職員の意見を反映した上で、専門職員(PT、OT、心理担当職員)、保育士が専門性を活かして作成している。		

適切な支援の提供	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	100%	0%	・児童発達支援管理責任者が中心になり、職員同士で意見交換の場を作り、お子様に携わっている全職員が様々な専門分野でお子様の行動を見極め、必要なアプローチの仕方を検討している。 ・お子様のニーズによって同グループ内の専門職員(ST)の意見を聞いたり、業務委託を行っている専門学校の先生の意見を聞いたりしながら、支援内容に反映している。	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	100%	0%	・ファイリング等で見返せるようになっており、いつでも確認できる。 ・個別支援計画に沿った支援を行いながら、お子様の現状から支援の方向性の確認や見直し、改善策を検討している。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	75%	25%	・スマイル独自に作成した発達段階に沿ったアセスメントシートを用いて、現状を把握している。 ・日々の行動観察等のインフォーマルなアセスメントは、各職員の専門分野の知識と照らし合わせて分析し、行動の意味を捉えている。	・一般的な発達段階を考慮したスマイル独自のアセスメントシートを活用しており、標準化したツールではない。今後必要に応じて項目を見直し、客観的なアセスメントを実施していく必要がある。
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	100%	0%	・個別支援計画は、項目ごとに分けて支援内容を吟味し、作成している。 ・現状の悩みや問題の背景にある根本的な理由を保護者様と見つけ、お子様の半年後、1年後と先を見据えた支援のご提案に努めている。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	88%	12%	・全職員で相談して、活動プログラムを考え実施している。専門職員の専門知識と保育士等の保育力(お子様への対応力)を合わせて計画を立てている。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	100%	0%	・お子様によって得意、不得意な活動がそれぞれあるため、必要な活動は継続的に行いながらも、同じ活動が続かないように新しい活動プログラムを考え実施している。	・急速プログラムを検討する状況になることがあるため、目的に合わせた活動プログラムを常に考え、臨機応変に対応できるようにする。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	100%	0%	・集団活動が難しいお子様には、まずその子にあった個別活動で「できた！」という自信を育てている。そこから、小集団、集団と段階的に規模を大きくする等、配慮している。 ・令和6年4月から個別専門療育(個別療育)と小集団・集団療育を組み合わせながら、全児童に対して個別支援計画や専門的支援実施計画書を作成し、実施している。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	100%	0%	・支援当日に活動内容や職員の役割分担を打ち合わせしている。実施前や実施中において、お子様の様子や体調に合わせて活動の変更や職員対応・連携の仕方を臨機応変に検討し実施している。	・送迎等の兼ね合いで職員の動きがあるため、役割分担をしているものの、臨機応変な対応を求められる事がある。どの職員も対応できるように、支援内容の共有を徹底していく。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	100%	0%	・支援実施直後や終礼の際にお子様の様子、良かった所、改善点の振り返りを行い、職員の意見交換や記録をまとめ情報共有をしている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	100%	0%	・専門職員がそれぞれの視点で、その日の支援について振り返り、考察や次回への改善点や留意事項についての記録をとるようにしている。	
23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	100%	0%	・基本は半年に1回の定期モニタリングを行い、保護者様と個別支援計画の見直しをしている。お子様によって成長の経過や検討の必要が生じた場合には、見直し期間を短くし適宜実施している。		
関係機関や保護者	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	100%	0%	・相談支援事業所とのサービス担当者会議、関係機関との会議には、管理者、児童発達支援管理責任者、現場の職員が参画し、事後に会議内容の情報共有をしている。	
	25	地域の保健、医療(主治医や協力医療機関等)、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	100%	0%	・医療機関等を利用しているお子様に関しては、保護者様や医療機関に許可を得て、リハビリの現場に同行させてもらう機会を設けている。定期的なリハビリの様子を聞き取り、情報共有をしている。 ・発達外来等の医療機関の定期受診、区役所とのやりとり、就園・就学先との教育相談や見学等の進捗状況を保護者様から継続的に聞き取りを行っている。必要に応じて関係機関先に出向き、連携して支援を行う体制を整えている。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	100%	0%	・併行利用児において、保育所、認定こども園、幼稚園等の様子を聞き取り、個別支援計画の作成に反映している。また個別支援計画作成後に、保育所等に訪問し日頃の様子や悩み、課題等の聞き取りや見学を通して保育所等の方針の理解に努めている。またお子様の理解者を増やし連携して療育が行えるように、事業所のお子様の見立てや今後の支援方針について伝えている。さらに日々の送迎時にお子様の様子や双方の悩みを出し合い、上手くいく声掛けや関わり方の情報交換をしている。	・現在、特別支援学校(幼稚部)の併行利用児や希望の利用児がおられないため、情報共有等行っていない。今後、必要に応じて実施していく。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	88%	12%	・移行支援として就学前には、必要に応じて引継ぎ資料(個別支援シート)を作成し、就学先への情報共有をしている。	
28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。					

との連携	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	38%	62%	・ケース会議で児童発達支援センターとの連携を図っている。 ・元児童発達支援センターで働く職員が在職しており、スーパーバイズの役割で仕事を行っている。	・現時点では、児童発達支援センターからのスーパーバイズや助言等の受けるケースはないため、連携に至っていない。今後、必要になった場合には、積極的に連携をしていく。
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他の子どもと活動する機会があるか。	50%	50%	・お子様の通園先への送迎時や保育所等訪問支援の中で地域交流の機会がある。 ・日頃の療育の一つとして、公園遊びで地域の子どもたちと一緒に鬼ごっこをしたり、会話をしたりして楽しんでいる。	・大半は通園先があるため、保育所等との交流の機会は設けていない。利用される方が地域交流のニーズが出てきた場合には、検討していく。
	33	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達状況や課題について共通理解を持っているか。	100%	0%	・リトム(連絡帳)に記入したり、送迎時にその日の様子を話したりして共有するようにしている。また月に一度子育てセミナーを開催しており、参加保護者と話しをしてお子様の現状や課題等を共有している。 ・SNSや口頭で情報を共有し、課題についても話し合うことができる。	
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	88%	12%	・月に一度の子育てセミナーでお子様の発達段階からの視点、お子様の立場に立った行動の意味の理解、家庭で取り組める具体的な案等を伝えている。	
保護者への説明等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	88%	12%	・管理者と児童発達支援管理責任者が、保護者様に説明を行っている。	・日々の業務の中で知識を身に付けている職員はいるが、特定の職員が説明を行っているため、把握できていない職員もいる。障害福祉サービスとしての様々な知識の習得の場を積極的に設けていく。
	36	児童発達支援計画を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	100%	0%	・契約する前にお子様の現状や保護者様の意向を確認する機会を設けて、その意見を踏まえた上で個別支援計画を作成している。	
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	100%	0%	・個別支援計画を作成した際には、その説明と保護者様の同意を得てから、それに沿った支援を行っている。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	100%	0%	・困り事や相談事をSNSや連絡帳で分かった際には、連絡帳での返答だけでなく、必要に応じて個別相談につなげ相談に乗る機会を設けている。 ・子育てセミナー等で相談に応じる等、機会を設けて必要な助言や支援を行っている。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	100%	0%	・子育てセミナーで、保護者同士の交流の機会を設けている。	・これからもっと増えても良いのではと考えている。個別相談や子育てセミナーの参加については、実施曜日や時間帯と保護者様のスケジュールの兼ね合いで固定されつつある。たくさん保護者様に参加して頂けるように、実施方法を検討していきたい。 ・きょうだい同士で交流する場合は希望の声が少ない事もあり、今のところ設けられていない。ただ近々開催する予定である。
	40	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	100%	0%	・送迎時において相談や申入れがあった場合は、その場での回答ではなく事業所に戻ってから先輩職員へ報告し、相談の流れにつなげている。内容により、順次送迎時やSNS等での返答や別日での個別相談の設定等、迅速な対応を心掛けている。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	100%	0%	・株式会社SmileGroupでの会社ホームページにおいて、活動概要等についての発信を行っている。 ・事前に月の予定として、土日祝のイベントを書類やLINEでお知らせをしている。また当日の工作やクッキング、外出イベント等の様子は、ホームページのブログで、随時発信や個別に保護者様に伝えており、様子は分かりやすいと思う。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	88%	12%	・事業所で保管している書類等は、鍵付きの書庫に入れて取り扱いには厳重に注意している。	・個人情報の取り扱いについての社内研修は実施しているが、職員の共通理解を図るため、年度初めには事業所内で共有し直すようにする。 ・個人の情報だけではなく、携帯での写真、動画撮影等のデジタルでの保存・管理についての一定の基準や職員としての留意事項等の共通理解を徹底して、順守する。
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	88%	12%	・お子様の聞き慣れた言葉や発達段階に応じて単語～2語文での指示の出し方を工夫している。また言葉だけではなく、ジェスチャーを交えた意思確認や絵カード、写真、映像等を用いて視覚情報を補いながら意思の疎通を図る工夫をしている。 ・保護者様には写真や動画を添えた情報伝達で、伝えたい内容が分かりやすいような配慮を心掛けている。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	12%	88%	・現在は、お散歩等で近隣の方と会った際にお子様と一緒に、積極的に挨拶を行っている。	・お子様は様々なエリアから利用して頂いており、コロナの時期もあったことで、地域への開かれた事業運営までには至っていない。様々な思いでご利用いただいているため、今後もプライバシーの問題から積極的な実施の難しさが考えられる。保護者様のご意向を聞きながら検討していく。 ・スマイル本店1階にカフェが設立され、そこでは地域に開かれた運営をしていく予定である。

非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	75%	25%	・会社全体として各種マニュアル作成に取り組み、管理職を中心に見直しの時期を決め、より良いマニュアルの策定に取り組んでいる。	・各種マニュアルを策定しているが、職員全体への徹底した周知や保護者様への周知や閲覧には至っていない。年間を通じた定期的な研修を通して、非常災害時への意識を高め、職員の心構えや対応力を育てていく。 ・今後は、様々な非常災害を想定した訓練を実施し、実践力をつけていく。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	75%	25%	・自然災害時、新型コロナウイルス感染症におけるBCPを策定し、職員への周知を行っている。 ・火災による避難訓練を実施している。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	75%	25%	・利用開始前に保護者様からの聞き取りや、必要に応じて医療機関の指示書を提出して頂き、緊急時の個別対応について情報収集をしている。 ・保護者様に向け服薬に関する一定の基準を書面を基に説明している。服薬を希望される場合は、服薬指示書を記入して頂き、その指示に基づき対応している。	・てんかん発作等を合併されているお子様がおられるが、事業所利用時には見られていない。今後どのような状況でも迅速に対応できる実践力を身に付ける研修を行っている。
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	62%	38%	・食物アレルギーについては保護者様の事前の聞き取りや、定期受診の経過報告を把握している。 ・食事における環境設定の他、昼食は弁当を持参して頂き、クッキングでは事前に材料の確認を取り、別メニューの提案等、個別対応をしている。	・現在食物アレルギーの状況把握は、保護者様からの聞き取りが中心になっている。医師の指示書が必要なケースはいない。今後出てきた場合には、指示書に基づき、対応を徹底していく。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	75%	25%	・夏に行う水遊びでは、事前に水を扱う危険性や事故・怪我のリスクについて職員で確認し、利用当日の計画・実施、見直し、修正等を行い、お子様の安全管理に努めている。	・安全管理に必要な研修や訓練等の回数が少ないため、次年度は年間を通して計画的に実施していきたい。
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	88%	12%	・お子様への安全を確保した取り組み内容を全職員で吟味し、保護者様への情報提供・周知を実施している。	
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	75%	25%	・日頃の療育内で気になることは職員同士で声を掛け合いその都度修正し、未然に防ぐことを心掛けて働いている(誤飲の可能性のあるものの処理・清掃、職員の視角を作らない配置等)。 ・日々のヒヤリハットの状態を終礼で確認し、再発防止に向けて職員の配置や対応について考える機会を設けている。	・再発防止に努めているものの、活動時のお子様同士の関わり方でヒヤットとする場面が見られている。 ・今後はヒヤリハット集を作成し、大きな事故や怪我を未然に防ぐために、職員の意識向上に向けての確認を継続的に行っていくたい。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	100%	0%	・虐待研修を実施し、職員の虐待を見極める目を育てている。施設従事者としての虐待を許さない、しない、通告義務がある等の意識を高め、日々取り組むべきことを行っている。	
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	88%	12%	・契約時において保護者様にやむを得ず身体拘束を行う場合の説明を行っている。現在該当するお子様はいないため、実施していない。	